

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502181		
法人名	株式会社グローバルケアマネジメント		
事業所名	ポテトタウン南の沢		
所在地	札幌市南区南沢1822-63		
自己評価作成日	平成24年8月10日	評価結果市町村受理日	平成24年9月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0170502181-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年8月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ポテトタウン南の沢は自然豊かな閑静な住宅地に位置しています。コンサートが行われています。地域で行われる南沢神社のお祭りには、利用者、職員も参加し、福祉会館前に並ぶテントで、くじ引きをしたり、おでんを食べたりと楽しんでいます。これらの様子は、毎月の『ポテト新聞』でご家族にお知らせしています。高齢になられ、日々変化のある利用者様には、ラジオ体操だけでなく嚙下体操なども取り入れ、散歩を日課とし、安心して暮らせる日常を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の自然豊かな住宅地にある2階建て1ユニットのグループホームである。近くに文教施設や社会福祉施設があり、町の福祉会館を利用した地域交流が活発で、事業所も各種の地域行事に参加している。建物は共用空間が広く、家庭的でゆったりとしており、馴染みやすい家具や調度品、雑誌などがさりげなく置かれている。月例会や内部研修において職員間のコミュニケーションがよく取れ、お互いに意見を言いやすい関係を築いている。介護計画の見直しでは、会議の中で意見を集約し、利用者の変化を要点としてまとめ、定期的に評価を実施して計画を策定している。外出支援の面では、日常的に裏の遊歩道や近くの神社、公園などに出かけるほか、地域での交流会やコンサート見学、地下鉄を利用しての外出、花見や紅葉狩りなどにも出かけている。外出時の利用者の楽しんでいる表情をビデオにとり、家族に提供して喜ばれている。前年度の外部評価で「期待したい内容」とされた項目についても概ね改善が実現されている。外出や買い物、通院支援など利用者の希望に応じたきめ細かなサービスが提供され、利用者や家族の安心につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月行われる月例会では理念を唱和し、常に確認し、地域とも連携を密にし、良好な関係を保っています。	3項目からなる独自の理念があり、その中で「住み慣れた地域での安心した暮らし」という内容を組み入れ、地域密着型の理念として確立している。理念はホーム内に掲示され、月例会で唱和し共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	活発な活動をされている、町内会、民生委員の方々と連絡を密にし、行事に参加し交流を図っています。	隣接する南沢福祉会館での「ふれあい交流会」に利用者と共に参加している。また、地域の運動会やコンサートに出かけている。住民がグループホームを見学に来たり、書道の先生が定期的に来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月2回行われる“ふれあい交流会”に参加し、地域の方々に名前や顔を覚えてもらっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターの担当者とは、常に研修、講習等の連絡、ホームでの活動について報告し、サービス向上に活かしています。	会議は2か月毎に開催され、地域包括支援センター職員、町内会役員、民生委員、家族などの参加を得て、行事や外部評価、嚙下やりハビリ、地域交流などのテーマで意見交換している。議事録は家族に送付されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者の入退院に関して、生活保護の病院等の支払いを相談したり、連絡を密に取っています。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加を得ており、管理者は区の管理者会議に参加し、行政担当者と情報交換している。利用者の入院受け入れ病院などの件で行政に相談して解決したこともある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が研修に参加し、それぞれ理解し、また常に話し合いが行われています。	身体拘束は行われておらず、禁止の対象となる具体的な行為が明示された身体拘束ゼロの手引き(パンフレット)を職員に配布し、勉強会などで理解を深めている。玄関は日中は施錠せず自由に入出入りすることができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞などで虐待の記事が掲載されると切り抜き、スタッフ全員で認識を共有し、虐待防止の徹底をはかっています。		

ポテトタウン 南の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護も講習会等に出席した職員を中心に学習しているが、具体的な実行例はありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は、納得されるまで十分に行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの要望、疑問などについては、よく話を聞き、改善の方向に向け取り組んでいます。	家族には来訪の際や電話にて意見を聞く機会を設けており、一部は運営推進会議やホームの行事にも参加してもらっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の要望、疑問などを聞き、職員全体で話し合う機会を設け、改善するように努めています。	毎月1回の月例会があり、その他に内部研修や勉強会でも、職員が活発に意見交換している。また、職員は行事や室内装飾、物品発注、写真などの役割を分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月例会や、ケアプラン作成時、内部研修などの場で、職員が意見を述べやすい場と雰囲気をつけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会にはなるべく多くの職員に参加してもらい、受講者は事業所内で報告会を開いています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者からなる役員同士でのつながりが出来つつあり、質の向上に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の既往歴などは時間をかけてゆっくり信頼関係を築いて行くように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用を開始する段階で家族等に説明し、疑問点があれば納得いただき実行するようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームに入所になった経緯を聞き、心配されることも含めて対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除機がけや洗濯物は自分で自分で畳んでもらっています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院その他、外出等のサポートをお願いしたり、電話などで家族との会話を楽しんでもらっています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい人との電話や、手紙のやりとり、会いに来て貰うなど、交流が途切れないように気に掛け、フォローしています。	知人や友人、前の入居者などが来訪しており、他にも電話や手紙のやり取りも支援している。手紙の返信が書けない場合でもホームのお便りを返信して差しあげている。近くの神社など馴染みの場所に同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの居室を行き来し、テレビを見たり、おしゃべりしたりしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族に電話などで近況報告してもらっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望される買い物を含め、必要なものはその都度職員が購入しています。	利用者毎に基本情報シートやセンター方式のアセスメントシートを作成しているが、作成後の情報の蓄積や見直しは十分とはいえない。	アセスメントシートの生活歴や、できないことなどについて、利用開始後に得られた情報や変化した内容を追加し、情報を充実して共有されることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の好みに応じて花や服を購入しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方や心身の状態を記入し、申し送りや伝え、現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	短期、長期の目標は担当者に記入してもらい、「変化の要点の記録」と照らし合わせ、介護計画の作成をしています。	介護計画は3か月の期間で見直し作成している。内部研修の際にモニタリングも行い「介護計画に関連した変化の要点」を作成して意見集約し、ケアプラン評価を行った上で、次の介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果等は月例会で報告検討され、情報の共有が図られています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症の進行に伴い、ドアホンなどを設置し、夜勤帯などに、確認を怠らないようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等に出かけても町内の人達が声をかけてくれ、交流を深めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族等の要望や薬に関する疑問などを主治医に伝え、家族に理解していただいています。	協力医療機関による月2回の往診を受けている。その他の通院は家族対応としているが、不都合な場合はホームで受診支援している。受診内容は「主治医の診断・所見」に記載され必要に応じて家族に報告されている。	

ポテトタウン 南の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康状態の変化、認知と思われる行動等について相談し、対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	24時間体制の医療機関の為、入、退院についてはスムーズに出来ています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当医、家族との話し合いに加え、介護職員も出来るだけ最後まで見守りたいと考えています。	重度化した場合や看取りの対応について、現状、ホームでは難しい旨を利用開始時に説明している。重度化した場合は医師より家族に説明してもらい、入院など適切な対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には緊急マニュアルが用意されており、職場近くに住む職員が駆けつけるなどの体制になっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練、避難訓練なども定期的に消防署の協力を得て行い、地域での訓練にも参加しています。	年2回、消防署や近所の福祉施設の地域の協力を得て夜間を想定した避難訓練を実施しており、職員の救急救命訓練も定期的に行われている。災害時に必要な備品の準備も整えている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の見守り時、入浴時の見守り等にもそれなりの配慮をしています。	利用者を尊重した言葉かけや対応を月例会で話し合い、名前の呼び方を「さん」付けとしている。排泄や着脱衣時には優しく接し、羞恥心に配慮している。個人情報などの書類は事務所で適切に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の好みの服装や、外出時の食事、出前の時なども本人の好みに注文しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事も、まず本人の希望を聞き、なるべくそれに添うよう心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の要望に合わせて、理美容院にカットに行ったり、洋服を選ぶなど、その人らしい生活が出来るよう支援しています。		

ポテトタウン 南の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事食や外食の選択、旬の食材、目でも楽しめる食事をと、利用者の能力や好みを反映できるように心がけています。	栄養士の助言をもらい、カロリーにも注意して職員が献立を作り提供している。誕生日には出前をとったり、外食ではメニューを選んでもらい、また畑で採れた野菜類を食卓にのせるなど、食事に変化をつけて楽しめるように工夫されている。職員は利用者と同じものを食べ、食後の後片付けに利用者も茶碗拭きやテーブル拭きで参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はバランス良く栄養が取れるような献立を作り、量や塩分はそれぞれに合わせて調整し、水分摂取量は一日分が確認出来るよう表にしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食、夕食後は声掛け、見守りで、必ず歯磨きを行い、就寝前には義歯を入れ歯洗浄剤に浸け清潔を保つようにしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は自立している人が多いが、それぞれの人に合わせた排泄の見守りで、リハビリパンツを使っている人は、その人のペースに合わせたトイレ誘導を行っています。	各人の排泄行為を見守り、出来るだけ自立に向けて支援している。誘導の必要な利用者には間隔を見てトイレで排泄介助を行っている。排泄の声かけや誘導時には羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操、○運動、ファイバーの摂取や、ヤクルト、ジョアなどの乳酸菌飲料の摂取などで整腸に勤め、極力薬に頼らない排便を心がけています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	見守り、介助の必要な人が多いため、曜日や時間帯を決めていますが、要望があれば、それにとらわれず、入浴、シャワー浴、足浴、清拭などを行っています。	週4日を入浴日と決め、午後から入浴を実施しているが、体調や状況によっては曜日を変更することもある。湯加減や順番は希望に応じて、基本的には週2回の入浴を支援している。排泄の失敗があった時はその都度、シャワー浴などで清潔に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝早起きされ、ソファーなどで傾眠されている時は、部屋に誘導し、休んでもらうようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診後の調剤薬局による副作用などの情報は、全職員に確認してもらい、誤飲、飲み忘れ等がないよう管理を徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的に、紙芝居や書道、塗り絵、貼り絵などを楽しみ、トランプをしたり、お菓子や飴の買い物など、それぞれの要望に添える支援を心がけています。		

ポテトタウン 南の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩やお買い物の他、町内会の行事(運動会、演奏会、お祭り、お花見、餅つき大会、クリスマス、敬老の日などの集まり)、お誕生日の外食な外出の機会が多いのですが、ご家族との外出や、それぞれの要望にも応えるようにしています。	裏の遊歩道や近くの神社、公園などを散歩し、隣の福祉会館の花を見てまわるなど、日々外気に触れている。また車で出かけて大型店の買い物も楽しんでいる。外食の他、花見や紅葉見物など遠出の外出もある。冬季にも受診の他、神社への初詣、会館でのふれあい交流会に参加するなどの機会がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時等に、お小遣いの範囲内で好きな物を選び、ものの価値観やお金の大切さを実感してもらえよう支援します。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があれば、電話を掛けるお手伝いをし、電話が掛かってきた場合には取り次ぎをしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に、明るく見通しのいい落ち着いた空間になっています。行事の写真、みんなの作品、四季おりおり飾りつけなどが展示され、季節感が感じられる様工夫されています。	下宿を改造した共用空間は、窓が多く広々していて明るい。台所を中心に食堂と居間が別になっており、居間の大きな窓からは景色が眺められ、ゆったりと過ごせる落ち着いた空間となっている。5室ある2階への階段はリハビリにもなり、また居室のドアにセンサーを取り付けて夜間の安全にも対応がなされている。暦・献立表、利用者の写真や作品が飾っており、生活感のある家庭的な雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に集まり、おしゃべりしたり、ゲームをしたり、テレビを見たり、歌をうたったり、ラジオを聞いたり、楽しそうな日常を過ごしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室が寂しくならないように、本人や家族の写真、また自分で作った作品を飾るなど、それぞれ工夫されています。	馴染みの家具類やテレビなどが持ち込まれており居室は広々としている。家族の写真、利用者の作品、また好きな芸能人や動物の写真を貼るなど、各人の好みの飾りや置物などに囲まれて過ごす、自室の延長のような居心地よい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレ、階段など、動線となるところには手すりを設置し、転倒防止を図り、自立した生活を続けられるよう援助しています。		

目標達成計画

事業所名 ポテタウン 南の沢

作成日：平成 24年 9月 10日

市町村受理日：平成 24年 9月 11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	センター方式で作成した基本情報の見直し等が行われていない利用者がある。	介護計画作成時に、改めて情報提供と見直しを行う。	担当者等に定期的に書き込みを行ってもらう。新しい情報の追加などを行う。	3ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。